

第1回円空大賞円空賞

鈴木実（すずきみのる）

プロフィール

国籍：日本

生年：1930年山形県生まれ、茨城県取手市在住

職業：彫刻家



作家略歴

1930年：山形県高畑町に生まれる。

1948年：桜井祐一に師事。

1960年：S・A・S彫刻家集団結成に参加。

1963年：S・A・Sが国画展に彫刻部を新設。国画会会員となる。

1965年：現代美術の動向展（京都国立近代美術館）。

1968年：第8回現代日本美術展に出品。

1973年：第1回彫刻の森美術館大賞展に出品。

1974年：第11回日本国債美術展に出品。

1978年：第7回平櫛田中賞受賞、受賞記念展（日本橋高島屋）。

1981年：現代日本の美術（宮城県立美術館）に出品。

1983年：木のかたちとエスプリ展（埼玉県立近代美術館）に出品。

現代日本の美術-立体造形（富山県立近代美術館）に出品。

1985年：現代彫刻の歩み-木の造形（神奈川県民ホールギャラリー）に出品。

現代のセルフポートレート展（埼玉県立近代美術館）に出品。中原悌二郎賞受賞。

1987年：現代日本具象彫刻展（千葉県立美術館）に出品。

1991年：日本近代彫刻の1世紀（茨城県近代美術館／徳島県立近代美術館）に出品。



受賞理由

- ・鈴木実氏は、日本の伝統的な木彫技術を身につけ、確かな技術に裏付けされた独自の肖像彫刻の分野を開拓した。
- ・肖像彫刻は、鈴木氏の記憶を通して再現され、モデルの個別性と普遍的な人間像を合わせ持ち、空間的に圧倒的な緊張感を作り出している。
- ・鈴木氏の作品の根底に横たわるのは人間の持つ本質的な孤独と不安である。代表作「家族の肖像」では、互いに視線を合せることのない家族像でありながら、強い絆で結ばれているという奇妙さと悲しさを表現しているが、この作品に象徴されているとおり、鈴木氏は伝統的な技法でもって近代日本の空虚さを効果的に表現している。
- ・また、その作品には、単に外見から受ける印象にとどまらず、人間の隠れた内面も書き出し、見る者の心を癒してくれる点で、円空賞の受賞者としてふさわしい人物である。

